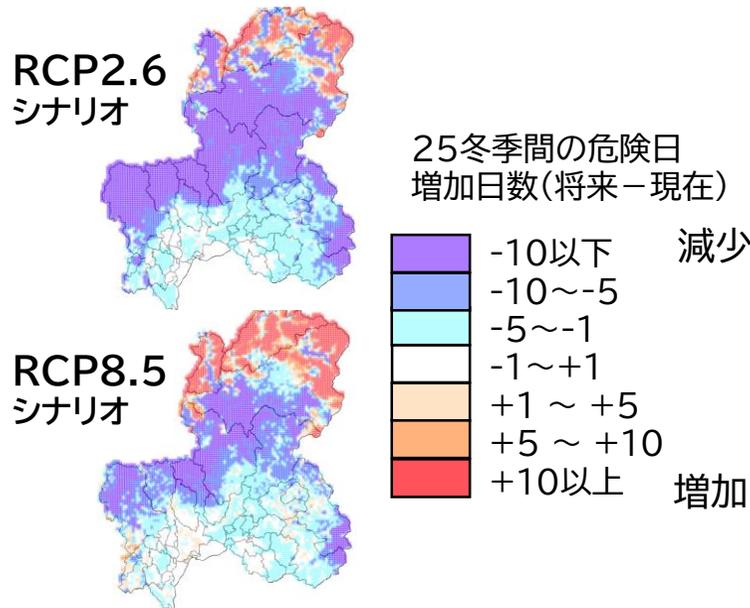
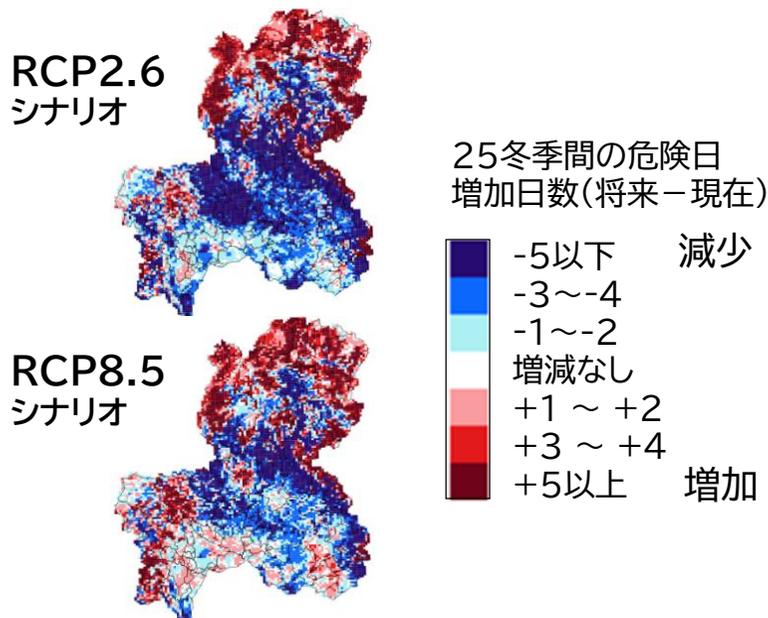


森林・中山間農業における雪害危険度の将来変化を予測

- 森林冠雪害については、いずれの将来予測シナリオ(RCP2.6、RCP8.5^{注1})でも、県北部で危険日日数が増加し、県中南部の多くの地域で冠雪害危険日が減少する傾向にありました。
- 農地雪害(ビニールハウスの倒壊)については、日積雪量が農業用ハウスの限界荷重を上回る危険日日数を判定しました。いずれの将来予測シナリオでも、県北部で農地雪害の危険性が増加し、県中南部域では農地雪害危険日が減少する傾向にありました。
- 将来的に雪害危険度が高い地域においては、森林の適切な密度管理、農地のハウス強化などの事前対策が望まれます。



注1:RCP2.6シナリオでは、2100年までに2℃程度の気温上昇、RCP8.5シナリオでは、2100年までに4℃程度の気温上昇が予測されています。

注2:ここでは、利用した5つの気候モデルの中で中庸な気温上昇を示したHadGEM2-ESの結果のみを示しています。気候モデル・将来予測シナリオの種類によって推定結果に違いがありますので、必ず報告書をご確認下さい。

森林冠雪害危険度の危険日増加日数
気候モデル(HadGEM2-ES)による結果^{注2}

農地雪害危険度の危険日増加日数
気候モデル(HadGEM2-ES)による結果^{注2}